

令和4年度財務4表

財務4表は、市の資産（現金、預金、土地、道路、学校など）、負債（借入金など）、市民サービスのために使われたお金などの状況を表したものです。

※表中の記載金額は、百万円未満を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合があります。（単位は百万円）

貸借対照表

市が所有する資産と、その資産をどのような財源で賄っているかを表します。

資産		負債	
1 固定資産 学校・保育園・道路、下水道など	132,191	地方債など、将来世代が返済する債務	48,643
2 流動資産 現金預金、未収金、基金など （うち現金預金）	13,387 (7,851)	純資産	
資産合計	145,579	これまでの世代が負担した正味資産	96,935
		負債及び純資産合計	145,579

資金収支計算書

どのような活動に資金を必要としたかを表します。

3年度末資金残高	7,816
4年度収支	
1 業務活動収支 日常の市民サービスを行う上での収支	4,747
2 投資活動収支 資産形成に関する収支	△ 5,118
3 財務活動収支 地方債などの借入や返済に関する収支	260
4 その他	87
4年度末資金残高	7,792
4年度末歳計外現金残高	59
4年度末現金預金残高	7,851

純資産変動計算書

純資産が、1年間でどのような要因で増減したのかを表します。

3年度末純資産残高	95,226
純行政コスト	△ 49,306
財源調達	50,831
地方税など	24,113
国・県補助金など	26,719
その他	184
4年度末純資産残高	96,935

行政コスト計算書

市民サービスを提供するために掛かった経費と、その対価として得られた収入を表します。

経常費用 (A)		
1年間に提供された市民サービス（資産形成に使われたものは除く）のための費用		58,458
経常収益 (B)	使用料・手数料など	9,316
臨時損失 (C)	資産の売却損など	207
臨時利益 (D)	資産の売却益など	43
純行政コスト	(A - B + C - D)	49,306

財務4表からわかること

※市民1人当たりの数値は、令和5年3月31日現在の住民基本台帳人口83,646人を基に算出しています。

①市民1人当たりの資産額、負債額は？

資産	174万円	負債	58万円
----	-------	----	------

②市の所有する固定資産の老朽化はどれくらい進んでいるの？

有形固定資産減価償却率	63.0%
-------------	-------

市の固定資産の半分以上は老朽化しており、施設の改修などが課題となっています。

③市の資産について、これまでの世代と将来世代の負担の分担はどうなっているの？

純資産比率	66.6%
-------	-------

これまでの世代と、将来世代の負担割合は、約2：1となっています。

④行政サービスを提供するために、市民1人当たりには掛かったコストは？

純経常行政コスト	59万円
----------	------